

2025年2月28日

各位

会社名 GMOメディア株式会社
代表者 代表取締役社長 森 輝幸
(コード番号 6180 東証グロース)
問い合わせ先 常務取締役 石橋 正剛
管理部門統括
TEL 03-5456-2626

2024年12月期 通期決算 質疑応答集

2025年2月5日に公表した当社の2024年12月期 通期決算に関し、当社で想定していました質問および公表以降に株主様、投資家様などの方々から頂戴したお問合わせ、感想につきまして、その内容と回答を以下の通りお知らせいたします。なお、ご理解いただきやすいよう、一部内容の加筆・修正を行っております。

【業績について】

Q： トップラインの伸びよりも利益率の伸びが顕著ですが、要因を教えてください。

A： 投資育成と位置づけしていた業界特化型の事業（学び・美容医療）が成長し、黒字化を達成した点が大きな要因としてあげられます。また、全社を通じた生産性向上策も功を奏し、利益率が大幅に改善いたしました。

【事業について】

Q： ソリューション事業は回復の目途が立っているのでしょうか。

A： ソリューション事業（アフィリエイト広告仲介事業）は従来からボラティリティの高い領域となっており、予想が難しいといった事情がございます。2024年12月期において集客やリピート利用を強化するシステムの開発を実施し、以降効果が発揮されることを見込んでおりますが、具体的な改善時期等については現時点で未定です。

Q： 生成AIへの注力が資料から感じられますが、多くの企業で生成AIを扱う中、御社の強みや優位性について教えてください。

A： 当社では生成AI技術により、業務効率化とコスト削減を実現しています。カスタマーサポートでは、AIエ

ーエージェント導入により対応人数を65%削減し、コストを約65百万円削減しました。^(※) また、クイズコンテンツの生成にもAIを活用し、外注コストを大幅に削減しています。これにより、業務効率化とコスト削減を同時に実現しています。一方、対外的にはAIを活用した情報教育の問題生成ツールを展開し、新たな収益源を創出しています。AIによる問題生成技術に関しては、すでに2件の特許を取得しており、教育分野におけるAI技術に関する特許を複数件出願中です。社内利用と提供価値の双方で、生成AIを事業の成長エンジンと位置づけています。

(※) 2022年12月期 対 2024年12月期比較での削減

【今後の見通し】

Q： 2024年12月期の前期比伸長と比較し、2025年12月期は利益成長率が約半減の予想となっていますが、業績予想の前提やポイントについて具体的に教えてください。

A：2024年12月期の営業利益については、期初では650百万円（前年比21.7%増）を目標として掲げておりましたが、結果として営業利益は715百万円（前年比42.8%増）と、目標を大きく上回って着地しました。

2025年12月期の業績予想では、営業利益915百万円（前期比20.0%増）を見込んでおりますが、この成長率が前期に比べて緩やかに見える主な要因は、2024年12月期における業績が当初の計画を大幅に上回る結果となったことによります。

2025年12月期につきましても、ポイント関連事業の安定的な成長を図りつつ、業界特化型事業の持続的な成長を推進させながら、引き続き投資を進めていく予定です。また、AI・RPAの活用による業務効率化を進め、営業利益率のさらなる改善を図り、着実な成長を目指してまいります。

Q： 投資育成をしてきた教育、美容医療領域が収益化しましたが、同様のカテゴリーで新たに育てていく事業を取り込む等の計画はあるでしょうか。

A：現在、教育および美容医療分野において、ストック型事業モデルのさらなる強化に注力し、安定した収益基盤の拡充を図っています。これら既存領域で、より持続性の高い収益構造を構築することが当社の主要な戦略です。また、同領域外でストック型収益の強化が見込める事業については、積極的に検討を進めています。今後も、安定成長の実現と収益基盤のさらなる強化に努めてまいります。

Q： 中長期的な計画について公表の予定はありますか。

A：外部環境の激しい変化等を想定し、現状で中期経営計画を公表する予定はございません。見通しや戦略が定まった時点ですみやかにお知らせいたします。

以上